

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養 専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザーコース	夜・通信	1590 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ネイリストコース	夜・通信	1560 時間	160 時間	
	アーティスト学科 エステティシャンコース (2020 年度でコース廃止のため2年生のみの科目時間数)	夜・通信	810 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ブライダル・ウェディングコース	夜・通信	1530 時間	160 時間	
	アーティスト学科 特殊メイクアーティストコース	夜・通信	1560 時間	160 時間	
	トータルビューティ学科 トータルビューティストスタイリストコース	夜・通信	2310 時間	240 時間	
	トータルビューティ学科 ヘアメイクアーティストコース	夜・通信	2340 時間	240 時間	
	プロ専科 トップスタイリストコース	夜・通信	780 時間	80 時間	
	プロ専科 特殊造形クリエイイ	夜・通信	840 時間	80 時間	

	ターコース				
衛生専門課程	美容科	夜・通信	1860 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Webサイトにて公表。【URL】<http://www.ecc.ac.jp/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人 山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf</a> 6 ページ参照
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員	2019年4月 1日～2021 年3月31日	学校経営に関する こと
非常勤	税理士	2019年4月 1日～2021 年3月31日	財務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。</p>	
授業計画書の公表方法	URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

#### 第4章 単位認定

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

(1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%) 以上であること。

(2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

#### 第10条 (学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。また、Webサイトでも公開している。

#### 第4章 単位認定

##### 第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

#### 2 GPA の適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

#### 3 GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。  
<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)          教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。</p>	
<p>卒業の認定に関する          方針の公表方法</p>	<p>HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。  <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/</a></p>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザー コース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	1050 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
384人の内数		170人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a> 【教育目標】 化粧品知識・販売技術（英語を含む）を修得すると共に、コミュニケーション能力（マナー、度胸）に優れた一流のビューティアドバイザーを育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対し
--

て卒業を認定する。

- ・TBA（メイク技術・接客技術・筆記）試験において学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・一般常識テストにおいて学内合格水準を満たすこと。（人間力）
- ・百貨店化粧品販売現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる。（国際力）

#### 【カリキュラムポリシー】

ビューティアドバイザーとしての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。（1年次）
- ・イメージメイク・年代別メイクの基礎技術・知識を習得する。（1年次）
- ・綺麗な立ち居振る舞い、接客用語等の接客に関わる基礎技術・知識を修得する。（1年次）
- ・色彩学、パーソナルカラー等色彩に関わる基礎技術・知識を修得する。（1年次）
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次）
- ・接客を交えたメイク技法、アンチエイジングメイク技法、セラピーメイク等のメイク応用技術・知識を習得する。（2年次）
- ・コスメ販売の技術・知識をケーススタディにより習得する。（2年次）
- ・プレゼンテーションに関わる技術・知識を習得する。（2年次）
- ・グローバル社会に対応すべく、美容部員の業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2年次）

#### 成績評価の基準・方法

##### （概要）

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

##### 第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

##### 第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

##### 第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。



80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

## 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

## 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

## 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えられていると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

## 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

## 卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
88人 (100%)	0人 (0%)	87人 (98.9%)	1人 (1.1%)

(主な就職、業界等)

化粧品 (美容部員) 業界

シャネル、コーセー (コスメコルテ、ADDICTION、JILL STUART)、アルビオン、ELCジャパン (ホビィブ라운、エステローダー、トムフォードビューティ、クリニック、TooFaced)、パルファンクリスタンティオール、日本ロレアル (ランコム、ヘレナルビンスタイン、shu uemura、ジヨルジオアルマーニ)、ACRO (THREE)、イプサ、エキップ、資生堂ジャパン (資生堂、NARS、LAURA MERCIER)、マッシュホールディングス (Celvoke)、LVMH (ジバンシイ、ケラン) 等

(就職指導内容) ・ 業界での就職先とキャリア形成の手法 ・ 履歴書、面接指導 ・ 企業紹介と面接対策
(主な学修成果 (資格・検定等) ) ・ JBMA メイクアップ技術検定 Basic コース 100% (75 人/75 人) ・ JBMA メイクアップ技術検定プロフェッショナルコース 71.6% (43 人/60 人) ・ 認定フェイシャルエステティシアン資格 54 人
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
175 人	25 人	14.3%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化、掲示板アプリの導入による教職員/学生との情報共有の強化、校舎の拡充による教育環境の整備、英会話授業への iPad 導入等が挙げられる。</p> <p>なお、2018年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者
卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表

学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ネイリストコース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間/単位	600 単位時間 /単位	1380 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
384人の内数		37人	0人	3人	6人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
【教育目標】 ネイルの幅広い知識と技術を習得しネイル関連検定を取得すると共に、あらゆる年齢層の顧客ともコミュニケーション・接客ができる素直で元気ある人材を育成する。
【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された検定試験・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して

卒業を認定する。

- ・ネイル系検定「JNEC ネイリスト技能検定1級」を取得している。（専門力）
- ・ネイル系検定「JNA ジェルネイル上級」を取得している。（専門力）
- ・ネイル系検定「衛生管理士」を取得している。（専門力）
- ・「サロン実習」での接客技術が合格水準を満たしている。（人間力）
- ・ネイルサロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる。（国際力）

#### 【カリキュラムポリシー】

ネイリストとしての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・ネイル理論を修得し、ネイル技術の基礎となるネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ技術を習得し、ネイル検定3級・2級の取得を目指す。（1年次）
- ・ジェルネイルの基礎を修得し、ジェルネイル検定初級を取得する。（1年次）
- ・2年次でのサロンワーク実習に向けて、サロンで必要となる実践技術、知識を習得する。（1年次）
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次）
- ・フレンチスカルプチュアの技術修得し、ネイル検定1級を目指す。（2年次）
- ・ジェルネイルの上級技術を修得し、ジェルネイル検定上級を取得する。（2年次）
- ・学内サロンにて実践的なネイル技術・サロンワーク・接客技術を修得する（2年次）
- ・グローバル社会に対応すべく、ネイルサロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2年次）

#### 成績評価の基準・方法

##### （概要）

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

#### 第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

#### 第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

#### 第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。



70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

## 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

## 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

## 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝え、同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

## 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

## 卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100.0%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)

ネイル業界

uka、Mani Closet、フリーズン (Pure Nail)、ライフビューティー、Lee (ロコ&カ)、LUXU (Dress)、AVANCE等

(就職指導内容)

- ・業界での就職先とキャリア形成の手法
- ・履歴書、面接指導
- ・企業紹介と面接対策

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• JNEC ネイリスト技能検定 1級 (取得率) 68.4% (13人/19人)</li> <li>• JNEC ネイリスト技能検定 2級 (1年生取得率) 100% (19人/19人)</li> <li>• JNA ジェルネイル技能検定上級 (取得率) 94.7% (18人/19人)</li> <li>• ネイルサロン衛生管理士 (取得率) 100% (19人/19人)</li> </ul>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• JNA アジアネイルフェスティバル 全日本理美容学校対抗ネイル選手権 1位 ネイルケア 2位</li> <li>• 東京ネイルエキスポ ネイルケア 5位</li> </ul>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	3人	7.5%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
アーティスト学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員にiPadを貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018. 4. 1～2020. 3. 31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 エステティシャン コース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数  1710 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年			810 単位時間 /単位	1170 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
		1980 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
384人の内数		4人	0人	5人	5人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a> 【教育目標】 エステ協会の上級の資格ならびに関連分野の資格を取得することにより幅広い知識と技術を保有する施術者を目指すと共に、エステティシャンとして美しく、健康的に、長く活躍できる人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業
--

までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

- ・エステ協会資格であるアジュステの上級を取得している。(専門力)
- ・エステ関連分野資格であるアロマコーディネーター資格を取得している。(専門力)
- ・エステ関連分野資格であるアロマヘッドトリートメント資格を取得している。(専門力)
- ・美容関連分野資格である JNEC ネイリスト技能検定 3 級を取得している。(専門力)
- ・「学内エステサロンでの実習」内で接客技術が合格水準を満たしている。(人間力)
- ・エステサロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる。(国際力)

#### 【カリキュラムポリシー】

エステティシャンとしての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・日本エステティック協会に基づくフェイシャルエステティック/ボディエステティックの基礎知識・技術を習得する(1年次)
- ・日本エステティック協会に基づくエステティック概論、関連法規、皮膚科学、栄養学、化粧品学等を習得し、エステティック知識の基礎を確立する。(1年次)
- ・サロンワーク技術の基礎を実習授業内で修得し、学内サロンでの実習に備える。(1年次)
- ・アロマセラピーに関する知識、技術習得し、JAA アロマコーディネーター資格取得を目指す。(1年次)
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1年次)
- ・日本エステティック協会に基づくフェイシャルエステティック/ボディエステティックの応用知識・技術を習得する(2年次)
- ・日本エステティック協会に基づく解剖生理学、施術関連知識・技術等を習得し、アジュステの上級を取得する。(2年次)
- ・学内サロンにて実践的なエステ技術・サロンワーク・接客技術を習得する。(2年次)
- ・グローバル社会に対応すべく、エステサロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2年次)
- ・エステサロンに来店されるシニア世代のお客様にも安心してお受け頂けるビューティケアの技術・知識を習得し、シニア検定とビューティケアセラピスト検定を取得する。(2年次)

#### 成績評価の基準・方法

##### (概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

#### 第4章 単位認定

第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

(1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%)以上であること。

(2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。



### 第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

### 第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

### 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

### 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

### 卒業・進級の認定基準

（卒業の要件） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えけると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

（進級の要件） 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

### 学修支援等

（概要）

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

### 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
------	------	-------------------	-----

13人 (100%)	0人 (0%)	13人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) エステ業界 TBCグループ、スリビューティハウス、不二ビューティ(たかの友梨)、PMKメディカルラボ、エル(エルセーヌ)等			
(就職指導内容) ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導 ・企業紹介と面接対策			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・エステティシャンセンター資格 100% (13人/13人) ・JAAアロマヘッドトリートメント検定 100% (6人/6人) ・Ajesthe認定上級エステティシャン 76.9% (10人/13人) ・日本シニア検定 76.9% (10人/13人)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	4人	20%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員に iPad を貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ブライダル・ウェディングコース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	1050 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
384人の内数		23人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
【教育目標】 ブライダル系の国家資格であるブライダルコーディネーター技能資格3級を取得する知識・技術を修得すると共に、ブライダル全般に及ぶ幅広い知識（プランニング、コスチューム、ヘアメイク、空間コーディネーター）と技術を兼ね備え、入社後即戦力となる人材を育成する。
【ディプロマポリシー】

コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

- ・国家資格ブライダルコーディネーター技能検定3級を取得する。(専門力)
- ・ブライダル実践イベントである「スマイルウェディング」学内合格水準を満たすこと。(専門力/人間力)
- ・ブライダル実践イベントである「ハートフェルトウェディング」学内合格水準を満たすこと。(専門力/人間力)
- ・外部研修授業である「インターンシップ」において学内合格水準を満たすこと。(専門力/人間力)
- ・ブライダル現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる。(国際力)

**【カリキュラムポリシー】**

ブライダル技術者としての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・ブライダルプランナーとしての基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・ブライダルコスチュームの基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・ブライダルメイクの基礎技術・知識を習得する。(1年次)
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1年次)
- ・ブライダルプランナーとしての応用技術・知識を習得し、3級ブライダルコーディネーター技能検定を取得する。(2年次)
- ・ブライダルコスチュームの応用技術・知識を修得する。(2年次)
- ・ブライダルメイクの応用技術・知識を習得する。(2年次)
- ・グローバル社会に対応すべく、ブライダル業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2年次)

**成績評価の基準・方法**

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

**第4章 単位認定**

第7条 (単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75% (アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%) 以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条 (総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条 (平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

**第10条 (学期末試験・評価)**

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

**第11条 (成績評価ランク)**

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード	可否	基準
-------	-----	------	----	----



		ポイント		
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

## 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

## 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

## 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えられていると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

## 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

## 卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)

ブライダル業界

ひらまつ、ベストアコバーサリー、賑屋 (mitte)、ジュエルジミ、西川 (SPOSA BLANCA)、アルカンジェル、ビーイー等

(就職指導内容) ・ 業界での就職先とキャリア形成の手法 ・ 履歴書、面接指導 ・ 企業紹介と面接対策
(主な学修成果 (資格・検定等) ) ・ プライダル・コーディネーター技能検定 3 級 71.4% (8 人/10 人) ・ BIA 認定アソシエイトコーディネーター 100% (11 人/11 人) ・ マナー・プロトコール検定 3 級 83.3% (10 人/12 人)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	3 人	12.5%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
アーティスト学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員にiPadを貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018. 4. 1～2020. 3. 31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	地域関係者

卒業生	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 特殊メイクアーティスト コース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 単位時間/単位	510 単位時間 /単位	1470 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
384人の内数		32人	1人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
【教育目標】 特殊メイク業界、造形業界で即戦力となる知識・技術を習得し、国内外で活躍できる人材を育成すると共にマルチに様々な依頼に対応できる作品を制作できる人物を養成する。
【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業

までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

- ・提携企業であるシャイニーアートによる筆記及び作品/プレゼンテーションのプロ専科卒業試験で学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・特殊メイク業界において英会話でコミュニケーションできる。（国際力）

**【カリキュラムポリシー】**

特殊メイク技術者として高い専門力と人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・モンスタースーツ、カポックプロダクツ、エピテーゼ、スモールスケールメカニカル等の特殊メイクに関する応用技術・知識を習得する。
- ・フィギュアの原型から商品までの知識・技術を習得する。
- ・特殊メイク業界において英会話でコミュニケーションできる技術を習得する。

**成績評価の基準・方法**

**(概要)**

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

**第4章 単位認定**

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

**第10条（学期末試験・評価）**

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

**第11条（成績評価ランク）**

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

**2 GPAの適用**

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の



<p>平均値である。</p> <p>3 GPAの算出方法  <math>(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}</math>  ※特別単位はGPAの計算に算入されない。</p> <p>HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。  <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/</a></p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝え、同時に、Webサイトでも公開している。  <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/</a>  卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。  (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による指導、出欠確認</li> <li>・電話による対応 ・担任面談</li> <li>・保護者会</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	13人 (46.4%)	10人 (35.7%)	5人 (17.9%)
(主な就職、業界等) 特殊メイク/造形業界 日本テーマパーク、共同エンジニアリング、合同会社ワザモノ等			
(就職指導内容) ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導 ・企業紹介と面接対策			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・必須検定なし			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	8人	15.1%

<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>金銭面、進路変更、人間関係等</p>
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等</p>

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員に iPad を貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018. 4. 1～2020. 3. 31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	地域関係者

卒業生	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	トータルビューティ学科 トータルビューティスタイリストコース	平成20年文部科学大臣告示第153号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間/単位	870 単位時間/単位	2130 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
	夜間		3000 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
267人の内数		58人	0人	3人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
【教育目標】 ヘアメイクアーティスト、美容師、ネイリスト、アイリスト、になるため、各専門力をバランスよく習得すると共に、海外からのお客様に物応じすることなく接客できる国際力を習得し、将来的に多方面で活躍できる人材を育成する。
【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業

までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

- ・業界関連分野資格である「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験（実技、学科）に合格する。（専門力）
- ・業界関連分野資格である「JNEC ネイリスト技能検定 2 級」を取得している。（専門力）
- ・業界関連分野資格である「国際アイラッシュ協会検定 2 級」を取得している。（専門力）
- ・業界関連分野資格である「JBMAメイクアップ検定 Professional」を取得している。（専門力）
- ・作品撮影（ブック製作/プレゼンテーション）が学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・サロン・美容現場において英会話で接客できる。（国際力）

#### 【カリキュラムポリシー】

美容技術者としての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。（1 年次）
- ・ヘアアレンジの基礎を習得し、作品イメージに合ったヘアスタイルができるようになる。（1 年次）
- ・ネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ等の基礎技術・知識を習得する。（1 年次）
- ・色彩学、デッサン、ファッションの基礎技術・知識を習得する。（1 年次）
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1 年次）
- ・顔分析法によるメイク技術、年代別・シチュエーション別メイク等の応用技術・知識を習得する。（2 年次）
- ・スカルチュアの応用、ジェルネイル、エアブラシ等のネイル技術・知識を習得する。（2 年次）
- ・デジタルデザインの応用技術・知識を修得する。（2 年次）
- ・グローバル社会に対応すべく、美容業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2 年次）
- ・ヘアメイク、ファッションの応用技術であるトータルスタイリングに関する技法を習得する。（3 年次）
- ・ジェルネイルの中級・上級技術を習得する。（3 年次）
- ・アイラッシュ技術を習得する。（3 年次）
- ・サロン・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。（3 年次）

#### 成績評価の基準・方法

##### （概要）

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

#### 第 4 章 単位認定

第 7 条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が 75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は 80%）以上であること。
- （2）総合評価点が 60 点以上であること。

第 8 条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される



「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

#### 第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

#### 第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

#### 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

#### 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

#### 卒業・進級の認定基準

（卒業の要件） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えられていると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

（進級の要件） 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

#### 学修支援等

##### （概要）

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 美容・メイク・ネイル業界 SHIMA、GARDEN、esNAIL、宝塚舞台、Seefu Hair Salon、MODE K's、NOISM、リビアス、Lee(ニコ&カ)、Nico Design Office 等			
（就職指導内容） <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界での就職先とキャリア形成の手法</li> <li>・履歴書、面接指導</li> <li>・企業紹介と面接対策</li> </ul>			
（主な学修成果（資格・検定等）） <ul style="list-style-type: none"> <li>・JBMA メイクアップ技術検定 Basic コース（1年生取得率） 100%（24人/24人）</li> <li>・JNEC ネイリスト技能検定 2級（取得率） 100%（30人/30人）</li> <li>・JNA ジェルネイル技能検定中級（取得率） 93.3%（27人/30人）</li> <li>・国際アイラッシュ資格2級（取得率） 100%（30人/30人）</li> <li>・ネイルサロン衛生管理士（取得率） 100%（30人/30人）</li> </ul>			
（備考）（任意記載事項） <ul style="list-style-type: none"> <li>・JNA アジアネイルフェスティバル ネイティフルコンテスト 1,2位</li> <li>・JNA 東京ネイルエキスポ ネイティフルコンテスト 3,5位</li> <li>・HEADART PHOTO CONTEST 準グランプリ</li> </ul>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70人	4人	5.7%
（中途退学の主な理由） 金銭面、進路変更、人間関係等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員に iPad を貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	トータルビューティ学科 ヘアメイクアーティスト コース	平成20年文 部科学大臣 告示第153号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	2070 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
	夜間		3000 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
267人の内数		177人	0人	4人	9人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a> 【教育目標】 メイクに関する幅広い職種に対応できる知識と技術力を備え、国内外で活躍できる人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対し
--

て卒業を認定する。

- ・作品撮影（ブック製作/プレゼンテーション）が学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・インターンシップにおいて学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・美容現場において英会話で接客できる。（国際力）

**【カリキュラムポリシー】**

美容技術者としての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を修得する。（1年次）
- ・ブラッシング・ピン止め～夜会巻き・カールアップ・日本髪等のヘアアレンジの基礎を習得する。（1年次）
- ・照明やカメラについて撮影に関する基礎技術・知識を習得する。（1年次）
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次）
- ・アーティスティックメイク、ブライダルメイク等のメイク応用技術・知識を習得する。（2年次）
- ・トータルアレンジ、フィンガーワーク等のヘアアレンジ応用技術・知識を習得する。（2年次）
- ・着付けの基礎技術・知識を習得する。（2年次）
- ・専攻に合わせたヘアメイクの高度技術・知識を習得する。（3年次）
- ・着付けプロレベルとしての応用技術・知識を習得する。（3年次）
- ・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。（3年次）
- ・美容師国家資格取得に必要な技術・知識を習得する。（1～3年次）

**成績評価の基準・方法**

（概要）

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
-------	-----	--------------	----	----



90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

## 2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

## 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$   
 ※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

## 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

## 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

## 卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
42人 (100%)	1人 ( 2.4%)	40人 ( 95.2%)	1人 ( 2.4%)

(主な就職、業界等)

ヘアメイク・美容業界

LIM、Seefu Hair Salon、資生堂美容室、Violet、L.O.G SHIBUYA U-REALM、坪内美容院、ROI、アトリエはるか、アトミック・トキ等

<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業界での就職先とキャリア形成の手法</li> <li>・ 履歴書、面接指導</li> <li>・ 企業紹介と面接対策</li> </ul>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等) )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JBMA メイクアップ技術検定 Basic コース 100% (1年生 62人/62人)</li> <li>・ JBMA メイクアップ技術検定プロフェッショナルコース 88.1% (1年生 52人/59人)</li> </ul>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全日本美容専門学生選抜 ヘアメイク選手権大会 グランプリ</li> <li>・ 第14回 IBF 主催 フォトコンテスト グランプリ/MAC 賞 W受賞</li> <li>・ ヘッドアートフォトコンテストアカシ(ステージクリエイト) 準グランプリ, 3位</li> <li>・ LUXE BEAUTY 9th ヘア&amp;メイク フォトコンテスト 2019 メイクアップグランプリ</li> <li>・ ICAM フォトコンペティション ビューティ部門 グランプリ</li> </ul>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
166人	15人	9.0%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
アーティスト学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員にiPadを貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018. 4. 1～2020. 3. 31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019. 4. 1～2021. 3. 31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	プロ専科 トップスタイリスト コース	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	810 単位時間/単位	210 単位時間 /単位	750 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			960 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人の内数		12人	0人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a> 【教育目標】 美容師資格を保有した上で、最短スタイリストデビューを可能とする即戦力技術を持つ人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対し
--

て卒業を認定する。

- ・（実技、学科）に合格する。（専門力）
- ・学内美容サロンアンベリールで 100 人以上のカット/カラー/シャンプーの実務経験を経ること。（専門力/人間力）
- ・サロンワーク卒業試験（外部からの試験管の意見も反映）にて学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・美容サロン現場において英会話で接客できる。（国際力）

【カリキュラムポリシー】

美容師として即戦力となる専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・学内美容サロンアンベリールで 100 人以上のカット/カラー/シャンプーの施術を行う。
- ・サロン経営に関する知識・技術を習得する。
- ・インターンシップにより外部美容サロンでのアシスタント経験を積む。
- ・美容サロン現場において英会話で接客できる技術を習得する。

#### 成績評価の基準・方法

（概要）

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第 4 章 単位認定

第 7 条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

（1）授業出席率が 75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は 80%）以上であること。

（2）総合評価点が 60 点以上であること。

第 8 条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第 9 条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第 10 条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第 11 条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

#### 2 GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。



履修した科目の評価「A」, 「B」, 「C」, 「D」, 「F」に対して、それぞれ「4」, 「3」, 「2」, 「1」, 「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1 単位あたりの成績の平均値である。

### 3 GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はG P Aの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Web サイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

### 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝え、同時に、Web サイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

### 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

### 卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11 人 (100%)	0 人 ( 0%)	11 人 ( 100%)	0 人 ( 0%)
(主な就職、業界等)			
美容業界 MODE K's、フィガロデザイン、CLOUD9 (CURACION)、トゥルス、木 (MOK)、フォルテ、チカラコーポレーション (formage) 等			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界での就職先とキャリア形成の手法</li> <li>・履歴書、面接指導</li> <li>・企業紹介と面接対策</li> </ul>			
(主な学修成果 (資格・検定等) )			
・CITY&GUILDS Technical Qualification LEVEL3 90.9% (10 名/11 名)			
(備考) (任意記載事項)			

### 中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
アーティスト学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000円	920,000円	220,000円	その他は「施設設備費」
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員にiPadを貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	プロ専科 特殊造形クリエイター コース	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	810 単位時間/単位	150 単位時間 /単位	810 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			960 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人の内数		12人	0人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a></p> <p>【教育目標】</p> <p>特殊メイク業界、造形業界で即戦力となる知識・技術を習得し、国内外で活躍できる人材を育成すると共にマルチに様々な依頼に対応できる作品を制作できる人物を養成する。</p> <p>【ディプロマポリシー】</p> <p>コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業</p>

までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

- ・提携企業であるシャイニーアートによる筆記及び作品/プレゼンテーションのプロ専科卒業試験で学内合格水準を満たすこと。（専門力/人間力）
- ・特殊メイク業界において英会話でコミュニケーションできる。（国際力）

**【カリキュラムポリシー】**

特殊メイク技術者として高い専門力と人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・モンスタースーツ、カポックプロダクツ、エピテーゼ、スモールスケールメカニカル等の特殊メイクに関する応用技術・知識を習得する。
- ・フィギュアの原型から商品までの知識・技術を習得する。
- ・特殊メイク業界において英会話でコミュニケーションできる技術を習得する。

**成績評価の基準・方法**

**(概要)**

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

**第4章 単位認定**

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

**第10条（学期末試験・評価）**

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

**第11条（成績評価ランク）**

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

**2 GPAの適用**

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の



<p>平均値である。</p> <p>3 GPAの算出方法  <math>(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}</math>  ※特別単位はGPAの計算に算入されない。</p> <p>HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。  <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/</a></p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝え、同時に、Webサイトでも公開している。  <a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/</a>  卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による指導、出欠確認</li> <li>・電話による対応 ・担任面談</li> <li>・保護者会</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 特殊メイク/造形業界 Mテック、レイバー造形			
(就職指導内容) ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導 ・企業紹介と面接対策			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・必須検定なし			
備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)

学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員に iPad を貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance03.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance06.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance04.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-projec.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf">http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance05.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容科	平成20年文部科学大臣告示第153号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2010 単位時間/単位	810 単位時間/単位	1200 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2010 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		106人	0人	8人	13人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、12月より授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <a href="http://www.ecc.ac.jp/syllabus/">http://www.ecc.ac.jp/syllabus/</a>
【教育目標】 美容師国家資格を取得する知識・技術を修得すると共に、美容室でのサロンワーク・接客技術を理解した自ら動ける・考えられる能動的な人材を育成する。
【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対し

て卒業を認定する。

- ・美容師国家試験に準じる学内卒業試験（実技、学科）に合格する。（専門力）
- ・学内美容サロンアンベリールで実施する「アシスタント実習」での接客技術が合格水準を満たすこと。（人間力）
- ・美容サロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる。（国際力）

**【カリキュラムポリシー】**

美容師としての専門力・人間力・国際力を兼ね備えた人材を育成するため、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・美容師国家試験の実技試験に準拠した基礎技術を習得する。（1年次）
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次）
- ・美容師国家試験の実技試験に合格できる技術を習得する。（2年次）
- ・美容師国家試験の学科試験に合格できる知識を習得する。（2年次）
- ・学内サロンにて実践的な美容サロンワーク・アシスタント業務・接客技術を習得する。（2年次）
- ・グローバル社会に対応すべく、美容サロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2年次）

**成績評価の基準・方法**

**（概要）**

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

**第4章 単位認定**

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

**第10条（学期末試験・評価）**

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

**第11条（成績評価ランク）**

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用



GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

### 3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

### 卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/art/>

設定された単位の全てを修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 設定された単位の全てを修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

### 学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

### 卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	13人 (23.6%)	40人 (72.7%)	2人 (3.6%)
(主な就職、業界等)			
美容業界 CMA マッシュ(グランマッシュ)、MODE K's、S N I P、SHINKA、A' Group (AUBE)、ケンジ、Nico Design Office、アルティマチェ、Battery、リビ`アス、ARCHE等			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界での就職先とキャリア形成の手法</li> <li>・履歴書、面接指導</li> <li>・企業紹介と面接対策</li> </ul>			
(主な学修成果 (資格・検定等) )			
・美容師国家試験 96.4% (53人/55人)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	12 人	10.3%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/18930self.pdf</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>本校では「学校評価実施規定」に則り、年間 2 回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2019年度は9月19日、2月26日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2019年度改善された項目として、当「教育の無償化申請」を実施しその対象校として承認を受けた。また、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化継続、掲示板アプリの継続による教職員/学生との情報共有の強化、新入生全員に iPad を貸与し英会話・専門分野授業への展開を予定等が挙げられる。また、各業界でのコロナ感染防止対策の状況を確認し、授業への対応・教育現場への対応の参考とした。</p> <p>なお、2019年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
一般社団法人 JMA	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野協会
資生堂プロフェッショナル株式会社	2年 2019.4.1～2021.3.31	分野企業
立命館高等学校	2年 2018.4.1～2020.3.31	高校等関係者
済美地域社会福祉協議会	2年 2019.4.1～2021.3.31	地域関係者

卒業生	2年 2019.4.1～2021.3.31	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf">https://art.ecc.ac.jp/outline/pdf/1801houkoku.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://art.ecc.ac.jp/">URL:http://art.ecc.ac.jp/</a>
--